

科目名	経営管理論B Business administration B						
科目担当者	柚原 知明 YUHARA Tomoaki						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]				ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)	
授業の概要	<p>・本授業の概要は、「組織間関係の管理」「モチベーションと組織活性化」「日本の経営管理」「資金管理」「CSR(企業の社会的責任)と経営倫理」を主要なテーマとして経営管理論に関わる基礎理論と経営管理の実態について解説する。基礎理論の解説がベースとなるが、DX(デジタル・トランスフォーメーション)等の最先端の技術革新を活用した先鋭的な領域やグローバル経営にも触れながら、基礎理論と具体的な事例の解説を行います。</p>						
授業の到達目標	<p>①経営学における主要な柱である経営管理論の歴史的な発展過程を踏まえ、企業組織を中心とした経営管理を巡る基礎的な諸理論について理解出来る。 ②経営管理論における基礎的な諸理論の理解を踏まえて、社会科学に対する深く“考える力”を習得する。</p>						
授業計画・内容	1	ガイダンス					
	2	組織間関係の管理(R.H. Coase と O.E. Williamson の取引コスト理論と事例)					
	3	組織間関係の管理(戦略的提携と事例)					
	4	組織間関係の管理(デファクト・スタンダード, ネットワーク外部性の理論と事例)					
	5	組織間関係の管理(プラットフォーム・リーダーシップの理論と事例)					
	6	モチベーションと組織活性化(人間関係論から行動科学へ)					
	7	モチベーションと組織活性化(動機づけ理論)					
	8	モチベーションと組織活性化(組織活性化と組織均衡論)					
	9	日本の経営管理(歴史の変遷, 三種の神器)					
	10	日本の経営管理(J.C. Abegglen の理論)					
	11	日本の経営管理(JIT, QC サークル, TQM)					
	12	資金管理(歴史の変遷と成果主義資金)					
	13	資金管理(最新の導入事例)					
	14	CSR(企業の社会的責任)と経営倫理					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	<p>・毎回の授業の範囲をテキスト等の熟読で予習し、理論の内容や専門用語の意味等を調べる(毎週2時間程度)。</p>						
授業外学修 (事後学修)	<p>・毎回の授業後の内容をテキストや配布したスライド等で復習し、理論の内容や専門用語の理解を深める(毎週2時間程度)。</p>						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	<p>・定期試験の結果を評価する。 ・2~3回程度の課題レポート提出内容を評価する。</p>				80% 20%	① ②	
成績評価基準	<p>秀：(評点90点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：(評点80点~89点) 到達目標を高い水準で達成している場合 良：(評点70点~79点) 到達目標を一定の水準で達成している場合 可：(評点60点~69点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：(評点60点未満) 到達目標に達していない場合</p>						
教科書	<p>・塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男 [2009] 『経営管理』有斐閣</p>						
参考文献	<p>・C.I. Barnard [1938] <i>The Functions of the Executive</i>, Harvard University Press.(山本安次郎ほか訳 [1968] 『経営者の役割』ダイヤモンド社。) ・David J. Collins and Cynthia A. Montgomery [1998] <i>Corporate Strategy: A Resource Based Approach</i>, McGraw-Hill.(根来龍之・蛭田啓・久保亮一訳 [2004] 『資源ベースの経営戦略論』東洋経済新報社。) ・Richard L. Daft [2001] <i>Essentials of Organization Theory &amp; Design</i>, 2nd Edition, South-Western College.(高木晴夫訳 [2002] 『組織の経営学』ダイヤモンド社。)</p>						
その他							